

海軍公報

(部内限) 第四千二百二十七號

海軍大臣官房

昭和十七年十月二十七日(火)

○ 令 達

官房第五九一七號ノ四

昭和十七年官房第五九一七號ニ依ル第十二海軍軍用郵便所ハ十月十六日ヨリ事務ヲ開始ス

昭和十七年十月十六日

海軍大臣

(七月四日本欄参照)

官房機密第一三二八九號

大東亞戰爭開始ニ當リ上海及漢口各地域ニ於テ沒收等ニ依リ獲得シタル物資ハ同時ニ同地區ニ於テ準備購入ヲ爲シタル物資ト併セ處理スルコトヲ得

前項ノ處理ニ關シテハ海軍省經理局長ヲシテ之ヲ定メシム

昭和十七年十月二十六日
海軍大臣

官房機密第一三三三九號

旅費ノ概算拂ヲ受ケタル軍人軍屬戰死シ追徴ヲ要スルモノアルトキハ追徴困難ナリト認ムル事由アル場合ニ限リ所屬長官ノ認許ヲ受ケ之ヲ給與スルコトヲ得

所屬長官前項ノ規定ニ依リ認許シタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ報告スベシ

昭和十七年十月二十七日
海軍大臣

○ 通 牒

官房第六二八一號

昭和十七年十月二十七日

海軍省 副官

關係廳長殿

自動車ノ錨標識ニ關スル件通牒

材料品ノ現狀ニ鑑ミ從來使用ノ眞鍮製自動車ノ錨標識ハ自今「ベークライト」等ヲ以テ作製使用ノコトニセ

ラレ候條可然取計相成度

軍務一機密第八〇四號

昭和十七年十月二十七日

海軍省軍務局長

各鎮守府參謀長
各艦隊參謀長
大湊警備府參謀長
馬公警備府參謀長

殿

戰時潜水艦乗員及航空機搭乗員等ノ保健ニ關スル施設其ノ他ノ件申進

軍務一機密第八六號申進首題ノ件中左記ノ通改メラルレ候條可然取計相成度

記

第三號(一)項中(ハ)ニトシ(ロ)次ニ左ノ如ク加フ

(ハ) 戰地ニ於テ潜水艦乗員又ハ航空機搭乗員タリシ者内地歸投ノ直前後ニ於テ他ニ轉勤シ概ネ二月以内ニ再ビ潜水艦乗員又ハ航空機搭乗員タルベキ豫定ノ者ニシテ所轄長ニ於テ其ノ必要ヲ認メタルモ

(参照) 軍務一機密第八六號(本年三月十日海軍公報(部内限))

軍務四第九號ノ一五〇

昭和十七年十月二十七日

海軍省軍務局長
海軍省經理局長

關係各廳長殿

獻納兵器命名式招待者接待ニ關スル件申進
首題ノ件ニ關シ昭和十六年四月官房第二〇六一號ニ依リ茶菓ノ接待又ハ記念品ノ贈呈等ヲ行フコトト相成居候處昭和十七年十二月二日以降當分ノ間記念繪葉書贈呈ノミ實施ノコトニ定メラレ候

兵備三機密第三六三號

昭和十七年十月二十七日

海軍省兵備局長

各鎮守府
各警備府
各艦隊
參謀長殿

敵襲ニ因ル民間船舶事故ニ關スル件照會

敵襲ニ因ル死亡者ニ對シ御救恤ノ思召有之ニ付テハ該當民間船舶事故ニ對シ證明書發付ノ必要有之候條貴管區ニ於ケル右該當船舶ニ付別紙様式報告ニ通共ノ都度(既往ノ分ハ一括成ルベク速ニ)提出ノコトニ取計ヲ

得度

(別紙)

敵襲ニ因ル民間船舶(漁船ヲ含ム)
事故報告

某鎮守府(警備府、艦隊)

一 船名 噸數
二 年、月、日 場所

三 敵襲種別
四 人員被害狀況

(イ) 死亡者員數氏名
(ロ) 負傷者員數氏名

海人第一號ノ二二二

昭和十七年十月二十六日

海軍省人事局長

各鎮守府參謀長 殿
大湊、大阪警備府參謀長

農繁期休暇ニ關スル人事取扱ノ件申進

本年軍務一第一五二號ヲ以テ申進ノ首題休暇ハ之ヲ勤
務日數トシテ取扱ヒ履歴表ニ記註セザル義ト了知相成
度

經物機密第二一號

官房機密第一三二八九號ニ依ル物資(以下(特)物資ト
稱ス)ノ處理要領左ノ通定ム

昭和十七年十月二十六日

海軍省經理局長

(特)物資處理要領

一 (特)物資ノ取扱整理ハ昭和十六年經物機密第八號
ノ規定ニ依ルノ外本要領ノ定ムル所ニ依ル

二 (特)物資ハ現地ニ於テ必要トスルモノ竝ニ海軍省
兵備局長及海軍省經理局長ニ於テ特ニ處分應ヲ指定
スルモノヲ除クノ外海軍省經理局準備購入材料物品
會計官吏(以下單ニ會計官吏ト稱ス)ニ於テ元受ヲ
爲スモノトス

三 會計官吏ハ毎月頭(特)物資在庫表ヲ調製シ關係應
ニ送付スルモノトス

四 關係應(特)物資ヲ必要トスルトキハ現品ニ付規
格、性狀等ヲ了知ノ上其ノ用途、必要ノ理由等ヲ詳
記シ會計官吏ニ請求スルモノトス

五 會計官吏前號ノ請求ヲ受ケタルトキハ重要物資ニ
シテ物動計畫ニ大ナル關係ヲ有スルモノ及入手極メ
テ困難ナル物資ニ付テハ豫メ海軍省兵備局長ニ協議

海軍公報(部内限)第四千二百二十七號

昭和十七年十月二十七日

一一三一

ノ上保管轉換ヲ爲スモノトス

六 會計官吏ハ(特)物資ニ付準備購入ヲ爲シタル金額ノ範圍内ニ於テ適宜ノ價格整理ヲ行フコトヲ得

七 會計官吏ハ毎月本要領ニ依リ保管轉換ヲ爲シタルモノニ付其ノ品名、數量及保管轉換先ヲ翌月頭海軍省兵備局長ニ通報スルモノトス

八 海軍省兵備局長及海軍省經理局長ニ於テ特ニ處分應ヲ指定シタル物資ハ當該廳ニ於テ直接元受ヲ爲スモノトス

九 本物資ノ授受ニ當リテハ(特)物資ナルコトヲ明示スルモノトス

經第十三號ノ七

昭和十七年十月二十六日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

海軍工具統制契約實施ニ關スル件照會

首題ノ件別紙要領ニ依リ實施致スベク候條可然取計相成度

(別紙)

海軍工具統制契約實施要領

海軍各廳及海軍ノ必要ト認ムル部外工場ニ於テ需要スル工具ノ中央統制契約ハ左記ニ依リ之ヲ實施ス

記

一 品 種

振錐、フライス、リーマー、タツブダイス、丸鋸刃、ダイヘッド、チエザー、マイクロメーター

二 實施期間

毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一箇年間トシ之ヲ各四半期ニ分ツ

三 所要量調査

海軍各需要廳又ハ海軍ニ於テ必要ト認ムル部外工場(海軍工事ニ專用ノモノニシテ最小限度ノ所要量ニ限ル)ハ翌年度所要量ヲ各四半期毎ニ區分シ各品種別ニ別紙様式第一ノ一乃至第一ノ三ニ依リ調書或通ヲ作製シ毎年十月末日迄ニ海軍艦政本部會計部(以下艦本會計部ト稱ス)ニ送付スルモノトス

部外工場ノ所要量調書ハ關係監督長(首席監督官)ヲ經由スルモノトス(別表第一參照)

四 數量提示

艦本會計部ハ前項所要量ニ基キ需要元別、品種別、期別、數量提示調書ヲ作製シ製造分野ノ割當ヲ行ヒ

工具製造業者及需要元ニ提示スルモノトス
本提示調書ニ記載ノモノハ艦本會計部ヨリノ指示ニ
依ルニ非レバ變更スルコトヲ得ザルモノトス(別表
第一參照)

五 註文及供給

- (イ) 需要元中央統制品ヲ發註セントスルトキハ前項
提示調書ニ基キ各期別毎ニ品種別、割當製造業者
別、註文書ヲ作製艦本會計部ニ送付スルモノトス
但シ部外工場ハ註文書(別紙様式第二)ニ充當工
事明細書(別紙様式第四)一通ヲ添付、所管海軍
監督長(首席監督官)經由艦本會計部ニ送付スル
モノトス
- (ロ) 艦本會計部前號ノ註文書ヲ接受シタルトキハ所
要ノ調査ヲ行ヒ製造業者ニ移牒スルモノトス
- (ハ) 製造業者註文書ヲ接受シタルトキハ直ニ所定ノ
承諾書(様式第三)ヲ發送シ供給手續ヲナスモノ
トス(別表第二參照)

附則

- 一 統制契約品寸度ニ付テハ所要量調査ノ際事前ニ之
ヲ通達ス
- 二 統制寸度外工具ニ付テハ資材割當等ノ關係上必ず

海軍公報(部内限) 第四百二百二十七號

昭和十七年十月二十七日

一一三三

艦本會計部ニ協議スルモノトス
(別表、様式添)

艦本機密兵無線第五二四號

昭和十七年十月二十六日

海軍艦政本部總務部長
海軍航空本部總務部長

橫須賀、賀、吳
佐世保、舞鶴
海軍軍需部長

海軍航空技術廠總務部長

第十一、第二十
第三十一、第四十二
海軍航空廠長

第五十一、第六十二
霞ヶ浦、橫須賀
木更津、鈴鹿
海軍航空隊司令

吳、佐伯、佐世
保、大村、舞鶴
各

空輸航空機ニ對スル無線歸投方位測定機
裝備工事中一部移管ニ關スル件照會(通
信長主管)

二月十四日艦本機密兵無線第二〇號(二月十四日海軍
公報(部内限)參照)中第一號但書(一)ノ擔任中零式空
四號無線歸投方位測定機(テ一)式空四號無線歸投方位
測定機ヲ含ム)ノ裝備ニ關シ第二海軍航空廠管内ノモ

ノニ對シテハ十月一日以降同廠擔任ノコトニ改メラレタルニ付了知相成度

艦本機密兵無線第五二五號

昭和十七年十月二十六日

海軍艦政本部總務部長
海軍航空本部總務部長

横須賀、吳 海軍軍需部長
 佐世保、舞鶴 海軍航空技術廠總務部長
 第一、第二 海軍航空廠長
 第三十一、第四十 海軍航空廠長
 第三十二、第六十 海軍航空廠長
 震ヶ浦、横須賀
 木更津、岩鹿
 吳、佐伯、岩國
 大分、佐世保
 大村、舞鶴
 各廠長

外戰部隊外地所在海軍航空廠ニ對シ空輸
 補給スル航空機ニ裝備スベキ無線兵器ノ
 裝備實施處理其ノ他ニ關スル件照會(通
 信長主管)

一月十四日艦本機密兵無線第一〇號(一月十四日海軍
 公報(部内限)參照) 中一部左記ノ通改正致候條可然

取計相成度

記

第一項中「外戰部隊並ニ第六十一海軍航空廠」ヲ「外
 戰部隊並ニ第四十一、第五十一、第六十一海軍航空廠」
 ニ、「名古屋海軍航空監督官」ヲ「名古屋及小泉海軍航
 空監督官」ニ改ム
 第二項分擔中横須賀海軍軍需部ノ欄ニ「小泉海軍航空
 監督官事務所」ヲ、吳海軍軍需部ノ欄ニ「岩國海軍航
 空廠」大分海軍航空廠」ヲ、佐世保海軍軍需部ノ次ニ
 「舞鶴海軍軍需部(舞鶴海軍航空廠)」ヲ加フ
 第五項中「所管海軍軍需部」ヲ「空輸元海軍軍需部」
 ニ改ム
 第六項ノ次ニ「七、空輸ニ伴フ保管轉換ハ通牒セズ軍
 需部間ノ供用保管轉換トス」ヲ加フ
 別表書式中「空輸元名」欄ノ上ニ「空輸區分」欄ヲ加
 フ

○ 辭 令

(各通)

海軍法務學生ヲ命ス(海軍省)

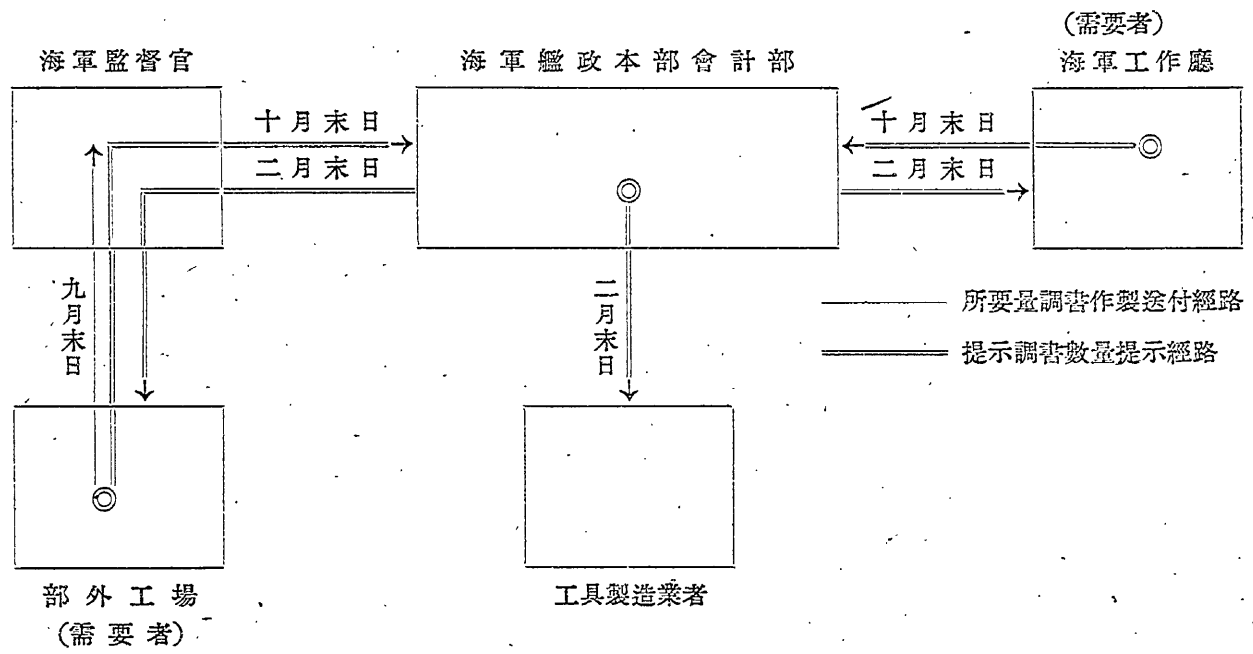
島津 一郎
田村 五男

0305

別表第一

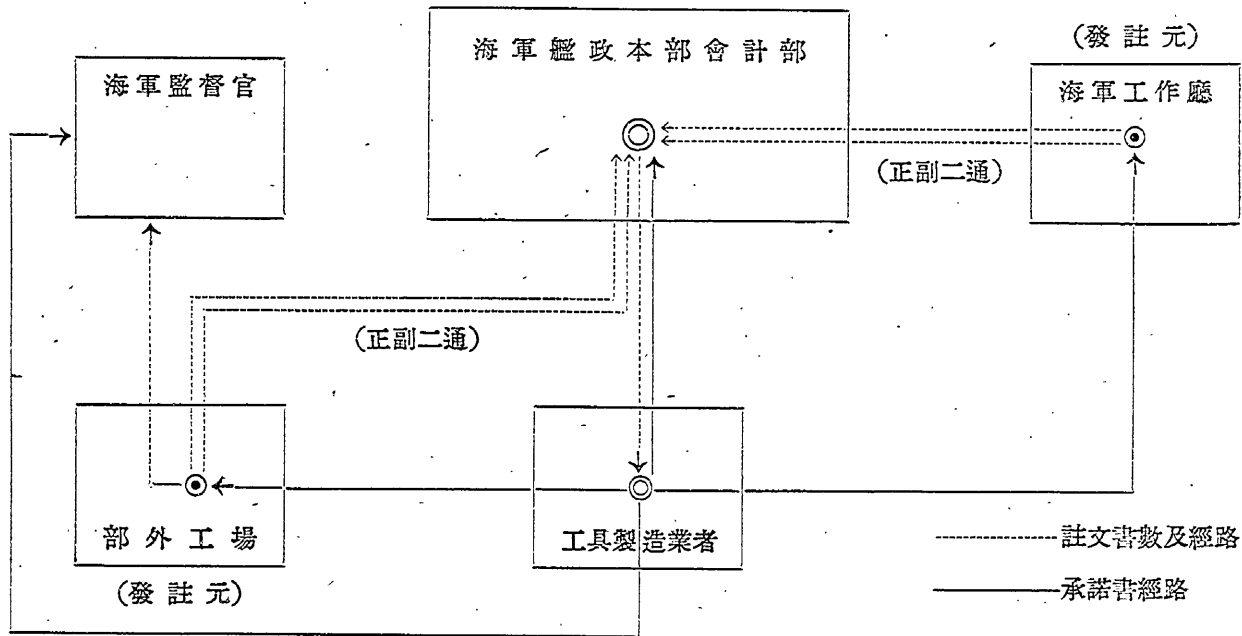
(昭和十七年十月二十七日海軍公報 (部内限))

所要量調査数量提示手續一覽表



(注文者調査書作製→申請→艦政本部提示調査書作製→提示経路ヲ示ス)
 (日附ハ手續締切期日ヲ示ス)

注文手続一覽表



(發註元注文書作製→注文→承諾書作製→承諾經路ヲ示ス)

0307

様式第一ノ一

(昭和十七年十月二十七日海軍公報(部内限))

昭和 年度統制契約工具類所要量調書

(注文者名及所在地)

品名	品種	寸法	期別所要量					充當工事				
			4-6	7-9	10-12	1-3	合計	海軍 注文 番號	海軍 注文 名	海軍 注文 品名	數量	
	材質記入							(イ)海軍各 要	廳直接需要	ノ場合ハ記	載不	
								(ロ)部外工 場指示ニ	場需要場合 ヨリ記載ノ	ハ所管監督 官ノ	コト	

- 記入寸法 (1) 上記ノ調書様式ハ振錐、リーマー、カツター、丸錐刃、ダイヘッドチエザー、マイクロメーター類ニ適用スルモノトス
- (2) 品名、品種(材質)製造業者別ニ必ズ別紙トスルコト
- (3) 各用紙ニハ必ズ上記所定ノ場所ニ注文者名及所在地ヲ明記スルモノトス
- (4) 上記ノ位置ニ充當工事記入困難ノ場合ハ適宜別紙ニ記載スルコトヲ得
- (5) 各部局別ニ別紙トスルモノトス (艦本關係ハ(艦)、航本關係ハ(航)、軍需關係ハ(需)、施本關係ハ(施))

様式第一ノ二

(昭和十七年十月二十七日海軍公報 (部内限))

昭和 年度 **タツブ** 類所要量調書

(註文社名及所在地)

0308

品名	品 種	寸 法		増徑 等徑	精 度	一組ノ 本 數	期 別 所 要 量					充 當 工 事					
		徑	ピッチ ねぢ山				4-6	7-9	10-12	1-3	計	海軍註 文番號	海軍註 文該名	海軍註 文品名	數量		
	材 質 記 入												(イ)海 軍各 場合 ハ	廳ハ 直接 記載 不 要	需 要 場 合 指 示	需 要 場 合 指 示	指 示 ノ コ
													(ロ)部 外工 場所 ハ	管 理 官 ノ 指 示	管 理 官 ノ 指 示	管 理 官 ノ 指 示	指 示 ノ コ

- 記入方法 (1) 上記ノ調書様式ハ**タツブ**類ニ適用スルモノニシテ所要量單位ハ個トス
 (2) 品名、品 種 (材質) 製造業者別ニ必ズ別紙トスルコト
 (3) 各用紙ニハ必ズ上記所定ノ場所ニ註文者名及所在地ヲ必ズ明記ノコト
 (4) 上記ノ位置ニ充當工事記入困難ノ場合ハ適宜別紙ニ記入スルコトヲ得
 (5) 精度覽ニハ特級、高級、並級ノ別ヲ記入ノコト
 (6) 各部局別ニ別紙トスルコト

0309

様式第一ノ三

(昭和十七年十月二十七日海軍公報(部内限))

昭和 年度統制契約**ダイス**類所要量調査書

(注文者名及所在地)

品名	品種	寸法				精度	期別所要量					充當工事						
		駒外徑	駒厚	稱呼徑	ビツテ おぢ山		4-6	7-9	10-12	1-3	計	海軍註 文番號	海軍註 文號名	海軍註 文品名	數量			
	材質記入													(イ)海軍各應直接需 ノ場合ハ記載不 (ロ)部外工場需 ハ所管監督官ノ 示ニヨリ記載ノ ト				要 要 合 指 コ

- 記入方法 (1) 上記ノ調査様式ハ**ダイス**類ニ適用スルモノトス
 (2) 品名、品種(材質)製造業者別ニ必ズ別紙トスルコト
 (3) 各用紙ニハ上記所定ノ場所ニ注文者名及所在地ヲ記入スルコト
 (4) 上記ノ位置ニ充當工事記入困難ノ場合ハ適宜別紙ニ記入スルコトヲ得
 (5) 精度覽ニハ特級、高級、並級ノ別ヲ記入スルモノトス
 (6) 各部局別ニ別紙トスルコト

海軍航空本部造兵監
督官海軍機關少佐

鈴木 勝登

兼神戸監理官ヲ命ス

兼神戸監査官ヲ命ス(二十五日同)

海軍主計中尉 亀井 二郎

潮、漣ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命シ置キタル處之ヲ免ス(二十日)

支出官 海軍省經理局長

海軍主計大尉 刈谷 徳治

第十一航空艦隊司令部ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス

海軍主計中尉 清水 章

右同時分任出納官吏ヲ免ス(以上十九日同)

吳海軍經理部
員海軍主計大尉 篠原 英夫

艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス

海軍主計大尉 高橋 市

右同時分任出納官吏ヲ免ス(以上二十日同)

○ 雜 款

○郵便物發送先
自今左ニ依リ發送相成度

横須賀郵便局氣付 第十海軍軍用郵便所氣付

特務艦筑紫

(第一測量隊)

海軍公報(部内限) 第四千二百二十七號

昭和十七年十月二十七日

一一三五

海軍公報

(部内限) 第四千二百二十八號

昭和十七年十月二十八日(水)

海軍大臣官房

○通牒

海人第一六七號

昭和十七年十月二十六日

海軍省人事局

部内各廳御中

新タニ任命セラレタル見習尉官ニ對スル
現役海軍士官名簿電報符ノ件通知。

九月三十日任命セラレタル海軍軍醫科、藥劑科、主計科、技術科、齒科醫科及法務科各見習尉官ニ對スル電報符ヲ左記ノ通定メラレ候

記

海軍軍醫見習尉官高藤次夫ヲ「S二二三三」、海軍藥劑見習尉官種田憲次ヲ「A九一」、海軍主計見習尉官佐々木 浩ヲ「P二〇七四」、海軍造船見習尉官川島榮一ヲ「C二八五」、海軍造船機見習尉官辻 好三ヲ「C一〇三三」、同鎌田重夫ヲ「C一一五〇」、同柚木彬滋ヲ「C一一五〇ノ二」、海軍造兵見習尉官坂本 弘ヲ「C三三〇三」、海

軍齒科醫見習尉官澤田郁夫ヲ「D八四」、海軍法務見習尉官設樂敏男ヲ「T五一」トシ各任命順序ニ從ヒ順次相當番號ヲ附與ス

○辭令

海軍省軍需局ニ於ケル事務ヲ囑託ス 和久利 順

但シ報酬年額參百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス (三七期海軍省)

海南警備府ニ於ケル業務囑託ヲ解ク 正四位勳四等 佐藤 鼎

「マニラ」地方海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(以上ハ同) 味岡 馨

第四艦隊ニ於ケル業務ヲ囑託ス 市東 傳治
但シ報酬年額貳千六百四拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(同)

海軍公報(部内限) 第四千二百二十八號

昭和十七年十月二十八日

一一三七

大倉 喜六郎

第三百三海軍經理部兼第三百三海軍軍需部ニ於ケル事務
囑託ヲ解キ第三南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千四百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇
トス(八明同)

陸軍獸醫中尉 今後 滋雄

南西方面艦隊民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

池田 福次

南西方面艦隊民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏
任官待遇トス(以上十明同)

陸軍獸醫中尉 今後 滋雄

海南警備府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

池田 福次

海南警備府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇
トス(以上十明同)

堀 村 眞

海軍航空技術廠ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官
待遇トス(十明同)

税關事務官 橋本 利八

佐世保鎮守府ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(十五明同)

三熊 文雄

海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任
官待遇トス

眞藤 恒
吉本 勇

(各通)

海軍艦政本部ニ於ケル造船業務ヲ囑託シ部内限奏任
官待遇トス(以上十明同)

大河原 肇

海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇
トス(十二明同)

田部 通

第二遣支艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解ク(十三明同)

勳八等 森山 秀吉

赤城丸ニ於ケル通信事務囑託ヲ解ク

從四位勳四等 小野 孝

海軍省事務囑託ヲ解ク(以上十明同)

藤 陵 隆

軍令部ニ於ケル編纂事務ヲ囑託ス
但シ報酬年額千貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇ト
ス

<p>(各通)</p> <p>海軍省經理局ニ於ケル事務ヲ囑託ス 但シ報酬年額貳千五百拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス</p> <p>高橋 守一 横山 涉</p>	<p>第二海軍火藥廠工員養成所教務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス</p> <p>石橋 當二</p>	<p>軍令部ニ於ケル編纂事務ヲ囑託ス 但シ報酬年額九百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス (以上十員同)</p> <p>西村 通男 脇野 正矣</p>	<p>粟田丸ニ於ケル通信事務囑託ヲ解ク(計四員同)</p> <p>高橋 謙</p>	<p>海軍航空本部ニ於ケル業務囑託ヲ解ク(計四員同)</p> <p>濱田 吉治郎</p>	<p>海軍省事務囑託ヲ解ク(計四員同)</p> <p>事務員 黒田 重信</p>	<p>第四十一海軍軍用郵便所員ヲ免ス(計十二員同)</p> <p>通信局書記 風間 肇</p>	<p>第四海軍軍用郵便所員ヲ免ス(計十二員同)</p>
<p>遞信局事務官 生野 豊水</p> <p>第二海軍軍用郵便所長ヲ免ス(計四員同)</p> <p>海軍豫備學生 春日 新吉郎</p> <p>(各通)</p> <p>同 藤尾 芳男 同 成田 千二</p> <p>臨時大湊警備府司令部ニ派遣ヲ命シ置キタル處之ヲ免ス</p> <p>田中 兼壽</p>	<p>海軍艦政本部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス</p> <p>松岡 敬信</p>	<p>海軍省事務囑託ヲ解ク</p> <p>通信書記補 廿利 茂</p>	<p>海軍省事務囑託ノ報酬トシテ金貳拾圓ヲ贈與ス</p> <p>海軍省事務囑託ヲ解ク(以上十員同)</p> <p>海軍主計少佐 佐野 純雄</p>	<p>第二課勤務ヲ命ス(計四員海軍省兵備局)</p> <p>海軍技手 佐野 義人</p> <p>(各通)</p> <p>同 陽 清</p>	<p>第二部第三課勤務ヲ命ス(計四員水路部)</p>		

海軍公報(部内限) 第四百二百二十八號

昭和十七年十月二十八日

一一三九

<p>第二部第三課勤務ヲ命ス 海軍中佐 田宮 百之</p>	<p>第一部第二課勤務ヲ命ス(以上同日同) 海軍技手 山口 嘉一</p>	<p>主トシテ兼務廳ニ於テ服務スヘシ(以上同日同) 水路部附兼第八艦隊司令部附海軍技師 横井 鎮男</p>	<p>主トシテ兼務廳ニ於テ服務スヘシ(以上同日同) 水路部附兼第八艦隊司令部附海軍技手 田中 作次</p>	<p>(各通) 水路部附兼第十一航空艦隊司令部附海軍技手 村田 新吉 水路部附兼上海海軍航路部附海軍技手 山肩 俊雄 同 粕谷 信吉 同 志村 輝昭</p>	<p>主トシテ兼務廳ニ於テ服務スヘシ(以上同日同)</p>	<p>○事務所設置 第六號掃海特務艇裝具事務所ヲ十月十二日大阪市住吉區北加賀屋町浪速船渠株式會社内ニ設置シ事務ヲ開始セリ</p>
<p>呂號第百六、百七潜水艦裝具事務所ヲ十月十五日吳海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ</p>	<p>驅逐艦初月艇裝具事務所ヲ十月二十一日舞鶴海軍工廠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ</p>	<p>○事務開始 相模野海軍航空隊(假稱)設立準備事務ヲ十月十五日横須賀海軍航空隊相模野分遣隊内ニ於テ開始セリ</p>	<p>○事務所移轉 香取海軍航空隊(假稱)設立準備員事務所ヲ十月二十三日千葉縣海上郡旭町千瀉ニ移轉セリ 追テ郵便物ハ千葉縣海上郡旭町千瀉海軍施設事務所宛</p>	<p>鎮海防備戰隊司令部殘務整理事務所ヲ鎮海警備府内ニ移轉セリ</p>	<p>○事務所撤去 第三十六號驅潜艇裝具事務所ヲ十月十五日撤去セリ 呂號第百三潜水艦裝具事務所ヲ十月二十日撤去セリ</p>	

海軍公報 (部内限) 號外

昭和十七年十月二十八日(水)
海軍大臣官房

表彰

賞 状

海軍技師 細谷 資英
大水槽加速試験装置ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル
所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ金貳百五拾
圓ヲ授與ス
(昭和十一年十月二十三日海軍大臣)

日本光學工業株式會社技師 砂山 角野
九一式機上觀測鏡ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所
洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ銀杯一箇並ニ
金參百圓ヲ授與ス
(昭和十二年八月十五日海軍大臣)

海軍造兵中佐 島本 克巳
小水槽試験法ノ確立並ニ飛行機用要具ヲ考案完成シ帝
國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令

ニ依リ銀杯一組並ニ金六百圓ヲ授與ス

(昭和十三年七月二十四日海軍大臣)

海軍技師 溝口 正夫
惡性錐揉防止ニ關スル研究ヲ確立シ帝國海軍ニ貢獻ス
ル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ徽章並ニ
金八百圓ヲ授與ス
(昭和十三年八月二十日海軍大臣)

海軍造兵大佐 樺山 喜造

照明投彈照明法ノ研究及遠心力試験機、電熱式ピト
管ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ
海軍技術有功章令ニ依リ銀杯一組並ニ金五百圓ヲ授與
ス
(昭和十六年九月十日海軍大臣)

徽 章 金九百圓 海軍大佐 井土 益三
同 同 海軍造兵少佐 早川 仁
銀杯一組 金四百圓 海軍造兵大尉 服部 一朗

金貳百圓

海軍造兵大佐 野村 元次

五號爆彈ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ(各頭書ノ通)ヲ授與ス

海軍技手 宮本 隆

五號爆彈ノ考案ニ方リ克ク上司ヲ輔佐シ之ガ完成ニ寄與シ帝國海軍ニ裨益スル所不尠仍テ海軍技術有功章令ニ依リ金百圓ヲ授與ス

徽 章

海軍大佐 堀内 多雄

同

金七百圓

海軍中佐 有坂 磐雄

九六式空二號無線電信機ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ(各頭書ノ通)ヲ授與ス

海軍造兵中尉 堀川 正

九六式空二號無線電信機ノ考案ニ方リ克ク上司ヲ輔佐シ之ガ完成ニ寄與シ帝國海軍ニ裨益スル所不尠仍テ海軍技術有功章令ニ依リ木杯一組並ニ金貳百五拾圓ヲ授與ス

日本無線電信電話株式會社

九六式空二號無線電信機ヲ完成シ帝國海軍ニ貢獻スル

所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ茲ニ之ヲ賞ス

海軍造兵大佐 佐々川 清

甲飯表面焼入法ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ徽章並ニ金七百圓ヲ授與ス

海軍大佐 北川 茂春

光學兵器防震裝置ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ銀杯一組並ニ金貳百五拾圓ヲ授與ス

(以上昭和十七年五月二十七日海軍大臣)

銀杯一組

金五百圓

海軍大佐 磯 惠

徽 章

金九百圓

同 松尾 實

同

同

海軍造兵大佐 大島 準一郎

銀杯一箇

金參百圓

海軍中佐 岩島 二三

徽 章

金七百圓

海軍造兵少佐 寺田 重義

九八式發砲裝置ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ(各頭書ノ通)ヲ授與ス

銀杯一組

金五百圓

海軍技師 中村 良雄

仍テ海軍技術有功章令ニ依リ銀杯一箇並ニ金參百圓ヲ授與ス

愛知時計株式會社技師 津田 岳

九二式射擊盤ヲ完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ徽章並ニ金八百圓ヲ授與ス

日本光學工業株式會社技師 村田 四方介

九一式高射裝置ヲ完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ徽章並ニ金八百圓ヲ授與ス

徽 章 金八百圓 海軍造兵中佐 近藤 俊雄

同 金七百圓 海軍技師 曲淵 俊介

無氣噴油航空發動機ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ(各頭書ノ通)ヲ授與ス

三菱重工業株式會社名古屋發動機製作所

無氣噴油航空發動機ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ茲ニ之ヲ賞ス

金貳百圓 海軍造兵大尉 城座 正明

銀杯一箇 金參百圓 海軍技師 保坂 悌吉

金百圓 海軍技師 千谷 俊喜
同 實驗工長 小友 久一

無氣噴油航空發動機ノ考案ニ方リ克ク上司ヲ輔佐シ之ガ完成ニ寄與シ帝國海軍ニ裨益スル所不尠仍テ海軍技術有功章令ニ依リ(各頭書ノ通)ヲ授與ス

海軍技師 鈴木 伊三郎

九六式空二號無線電信機ノ考案ニ方リ克ク上司ヲ輔佐シ之ガ完成ニ寄與シ帝國海軍ニ裨益スル所不尠仍テ海軍技術有功章令ニ依リ木杯一箇並ニ金百五拾圓ヲ授與ス

徽 章 金七百圓 住友金屬工業株式會社技師 丸山 五男

同 同 同 田邊 友次郎

同 金八百圓 同 五十嵐 勇
銀杯一組 金五百圓 海軍機關中佐 川村 宏矣
超高力「ジュラルミン」ESDヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ(各頭書ノ通)ヲ授與ス

木杯一組 金貳百五拾圓 海軍技師 四本 堯次

金百圓 海軍技師 山口 稔

同 實驗職手 鈴木 芳松

金貳百五拾圓

日本光學工業株式會社技師

松谷 五郎

九一式機上觀測鏡ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ(各頭書ノ通)ヲ授與ス

日本光學工業株式會社技師 山崎 保

九一式機上觀測鏡ノ考案ニ方リ克ク之ガ完成ニ寄與セルハ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ茲ニ之ヲ賞ス

徽 章

金七百圓

海軍技師

田中 修吾

銀杯一組

金四百圓

海軍造兵大尉

赤松 速雄

航空發動機平軸承ノ性能向上ニ關スル研究ヲ完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ(各頭書ノ通)ヲ授與ス

銀杯一箇

金貳百五拾圓

海軍技師

佐藤 忠雄

同

金百圓

海軍技師

吉成 頼尙

無ニツケル高力銅合金ノ研究ヲ完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ(各頭書ノ通)ヲ授與ス

金貳百五拾圓

海軍技師

細田 市郎

銀杯一箇

金貳百圓

同

宇野 昌一

尿素接着劑ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ(各頭書ノ通)ヲ授與ス

尿素接着劑ノ考案ニ方リ克ク上司ヲ輔佐シ之ガ完成ニ寄與シ帝國海軍ニ裨益スル所不尠仍テ海軍技術有功章令ニ依リ金百圓ヲ授與ス

銀杯一箇

金參百圓

海軍技師

松井 晋作

木杯一組

金貳百圓

海軍技師

原田 卓朗

水晶式可搬測壓器ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ(各頭書ノ通)ヲ授與ス

海軍技師 八坂 榮次郎

二十五耗機銃銃架架構及銃鞍鑄造法ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ金百五拾圓ヲ授與ス

銀杯一組

金五百圓

海軍技師

石原 井

同

同

海軍造兵大尉

服部 一朗

金貳百五拾圓

海軍造兵少佐

早川 仁

九九式特殊彈頭及彈底發火裝置ヲ考案完成シ帝國海軍

ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ
(各頭書ノ通)ヲ授與ス

海軍技手 宮本 隆

九九式特殊彈頭及彈底發火裝置ノ考案ニ方リ克ク上司
ヲ輔佐シ之ガ完成ニ寄與シ帝國海軍ニ裨益スル所不尠
仍テ海軍技術有功章令ニ依リ金百圓ヲ授與ス

海軍中佐 赤柴 千仗

爆撃演習機ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大
ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ銀杯一組並ニ金五百
圓ヲ授與ス

海軍技師 丹野 舜三郎

爆撃演習機ノ考案ニ方リ克ク上司ヲ輔佐シ之ガ完成ニ
寄與シ帝國海軍ニ裨益スル所不尠仍テ海軍技術有功章
令ニ依リ金百圓ヲ授與ス

日本無線電信電話株式會社

零式空四號無線歸投方位測定機ヲ考案完成シ帝國海軍
ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ
茲ニ之ヲ賞ス

金貳百五拾圓

金貳百圓

海軍造兵大尉 關堂 可雄
海軍造兵中尉 栗田 孝

金百圓

海軍技手 龜井 瀧治

零式空四號無線歸投方位測定機ノ考案製造ニ方リ克ク
製作會社ヲ指導シ之ヲ完成セシメタルハ帝國海軍ニ貢
獻ナル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ(各
頭書ノ通)ヲ授與ス

木杯一組 金參百圓

海軍技師 阿部 末吉

同 金貳百圓

同 菱沼 勇

光學兵器防震裝置ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所
洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ(各頭書ノ通)
ヲ授與ス

銀杯一組 金四百圓

海軍大佐 北川 茂春

銀杯一箇 金貳百圓

海軍少將 片岡 太司郎

同 同

海軍造兵大尉 青木 小三郎

銀杯一組 金四百圓

海軍造兵大尉 竹内 菊雄

九八式安定儀ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ
大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ(各頭書ノ通)ヲ
授與ス

金百五拾圓

同

海軍技手 池本 寛
海軍造兵中尉 水野 正之

同

海軍造兵大佐 佐々川 清
九八式安定儀ノ考案ニ方リ克ク上司ヲ輔佐シ之ガ完成ニ寄與シ帝國海軍ニ裨益スル所不尠仍テ海軍技術有功章令ニ依リ(各頭書ノ通)ヲ授與ス

海軍造兵大尉 古澤 猛彌
超高溫度測定用熱電對及同保護管ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ銀杯一箇竝ニ金四百圓ヲ授與ス

海軍中佐 村田 美穂
航空光學兵器用空接廠式氣泡水準器ノ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ銀杯一箇竝ニ金四百圓ヲ授與ス

海軍中佐 岡本 林藏
航空光學兵器用空接廠式氣泡水準器ノ考案ニ方リ克ク指導之ガ完成ニ寄與セルハ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ金參百圓ヲ授與ス

海軍技手 岡本 隆
同 實驗工長 富田 隆
航空光學兵器用空接廠式氣泡水準器ノ考案ニ方リ克ク上司ヲ輔佐シ之ガ完成ニ寄與シ帝國海軍ニ裨益スル所

海軍造兵大佐 佐藤 一昌
不尠仍テ海軍技術有功章令ニ依リ(各頭書ノ通)ヲ授與ス

海軍造兵大尉 井上 成恭
八八式機雷ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ銀杯一箇竝ニ金參百圓ヲ授與ス

元遞信技師 難波 捷吾
元遞信技手 塚田 太郎
陸上用短波方位測定機ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ(各頭書ノ通)ヲ授與ス

海軍造兵大尉 渡 邊 武
銀杯一組 金五百圓
銀杯一箇 金參百圓
革術帶ヲ改良完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ(各頭書ノ通)ヲ授與ス

海軍造兵中佐 高田 久三郎
海軍中佐 曾田 隆宗
海軍大佐 宇佐美 治作
海軍造兵大尉 伊藤 庄衛
銀杯一箇 金參百圓
九二式艦底測程儀ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所

洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ(各頭書ノ通)ヲ授興ス

海軍造兵中佐 閑 歳 修 吉

九三式探信儀ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ銀杯一箇竝ニ金參百圓ヲ授興ス

海軍主計特務大尉 稻 積 包 智

海水ニテ豆腐ノ簡易製造法ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ銀杯一組竝ニ金四百圓ヲ授興ス

金百五拾圓 海軍主計兵曹長 中村 幸雄
金百圓 海軍一等主計兵 吉本 千代喜

海水ニテ豆腐ノ簡易製造法ノ考案ニ方リ克ク上司ヲ輔佐シ之ガ完成ニ寄與シ帝國海軍ニ裨益スル所不尠仍テ海軍技術有功章令ニ依リ(各頭書ノ通)ヲ授興ス

(以上昭和十七年八月一日海軍大臣)

海軍造兵大佐 野村 元次

九九式特殊彈頭及彈底發火裝置ヲ考案完成シ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大ナリ仍テ海軍技術有功章令ニ依リ

銀杯一組竝ニ金五百圓ヲ授興ス
(昭和十七年八月二十一日海軍大臣)

海軍公報 (部内限) 號外

海軍公報

(部内限) 第四千二百二十九號

海軍大臣官房

昭和十七年十月二十九日(木)

○ 令 達

官房第六三三三號

酒保設置規程中左ノ通改正ス

昭和十七年十月二十九日

海 軍 大 臣

第一條中「下士卒」ヲ「下士官及兵」ニ改ム

第八條第一項中「軍醫官」ヲ「軍醫科士官」ニ改ム

第九條中「上長官」ヲ「士官」ニ改ム

第十三條 廢廳ト爲リ若ハ酒保員僅少ト爲リ又ハ其ノ

他ノ事由ニ因リ酒保存置ノ必要ナキニ至リ酒保ヲ閉

鎖スル場合ニ於テ之ガ清算ノ結果生ジタル殘餘財產

ハ其ノ艦船部隊ノ在籍又ハ所管鎮守府ノ所在地ニ在

ル財團法人海仁會支部ヲ經由シ海仁會本部ニ之ヲ寄

附スルモノトス

第十四條 艦船部隊ニ於テ酒保ヲ設置スル場合ニ於テ

其ノ資金ニ不足アルトキハ其ノ在籍又ハ所管鎮守府

ノ所在地ニ在ル財團法人海仁會支部ヲ經由シ海仁會本部ニ之ガ借入ノ申込ヲ爲スコトヲ得

附 則

本令ハ昭和十七年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際舊第十三條ノ規定ニ依リ鎮守府副官ノ現

ニ保管ニ係ル現金及預金並ニ艦船部隊ニ於ケル酒保ノ

資金トシテ鎮守府副官ノ現ニ貸付中ニ係ル貸付金債權

ハ其ノ計算ヲ明ニシテ速ニ之ヲ該鎮守府所在地ニ在ル

財團法人海仁會支部ヲ經由シ海仁會本部ニ寄附又ハ讓

渡スルモノトス

○ 辭 令

通信書記 藤 沼 喜之

遞信局書記 森 田 悟

通信書記補 齋 藤 勝 夫

同 須 貝 智 治

集配員 成 田 利 喜 雄

(各 通)

海軍公報(部内限) 第四千二百二十九號 昭和十七年十月二十九日

一一四一

第十海軍軍用郵便所員ヲ免ス(海軍省) 集配員 高梨 武夫

第十海軍軍用郵便所員ヲ免ス(海軍省) 通信書記 西廣 健一

第十海軍軍用郵便所員ヲ免ス(海軍省) 通信書記補 安井 正次

第十海軍軍用郵便所員ヲ免ス(海軍省) 集配員 門倉 恒吉

第十海軍軍用郵便所員ヲ免ス(海軍省) 遞信局書記 藤澤 榮吉

第十海軍軍用郵便所員ヲ免ス(海軍省) 通信書記 後藤 貞義

第十海軍軍用郵便所員ヲ免ス(海軍省) 事務員 前旬 幸雄

第十海軍軍用郵便所員ヲ免ス(海軍省) 集配員 中山 兼次郎

第十海軍軍用郵便所員ヲ免ス(海軍省) 同 齊藤 信太郎

第五海軍軍用郵便所員ヲ命ス(海軍省) 但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(海軍省)

臺灣總督府地方警視 小野 正木

海軍警備府附ヲ命ス(海軍省) 海軍機關少佐 今井 和夫

第三課勤務ヲ命ス(海軍省軍務局)

○雜款

○郵便物ニ關スル件
本艦宛郵便物ニシテ砲艦神津丸ト神祥丸、富津丸等ト混同誤達セラルルモノ多敷有之事務處理上支障不尠候ニ付左ニ依リ發送ノコトトシ發送ニ當リテハ表記ニ充分留意相成度

神津丸

(砲艦神津丸)

○郵便發送先
自今左ニ依リ發送相成度

司令宛

機關長、主計長宛

軍醫長宛

第十二號驅潛艇

第十號驅潛艇

第十一號驅潛艇

(第三十一號驅潛艇)

舊第二十驅逐隊關係書類ハ左ニ送付相成度

庶務關係

給與關係

夕霧主計長

白雲主計長

(第二十驅逐隊殘務整理員)

<p>(一) 郵便物宛名ニ記載ヲ要セズ</p> <p>宛 名 發 送 先</p> <p>第二十二航空戰隊 千葉縣木更津航空隊氣付 「ウ壹八八」</p> <p>美幌航空隊 同 「ウ壹五七」</p> <p>第十一航空艦隊司令部 橫須賀郵便局氣付第三十六軍 用郵便所經由 「ウ六八」司令部</p> <p>第二十二設營隊 橫須賀郵便局氣付 「ウ壹〇五」ウ壹八六」</p> <p>第七五一航空隊支隊 佐世保郵便局氣付第四十一軍 用郵便所經由 「ウ六九」ウ壹七四」</p> <p>筑紫 橫須賀郵便局氣付 「第十軍用郵便所經由」 「七四六」</p> <p>第一測量隊 同 「第十軍用郵便所經由」 「ウ八四」ウ壹〇八」ウ壹六武」</p> <p>橫須賀鎮守府第三特別陸戰隊 橫須賀郵便局氣付 「ウ〇〇」ウ壹八武」</p> <p>第二設營隊 吳郵便局氣付 「第二十六軍用郵便所經由」</p> <p>弘玉丸</p>		<p>第三航空隊第一派遣隊 橫須賀郵便局氣付 「ウ壹〇五」ウ七參」ウ七八」</p> <p>潮、曙、漣 同 「第十軍用郵便所經由」 「第三十五軍用郵便所經由」</p> <p>照月 同</p> <p>第一海上護衛隊司令部 佐世保郵便局氣付 高雄郵便局經由 「イ參六」司令部</p> <p>第十七回航班 吳郵便局氣付 「テ貳壹」テ貳壹」</p> <p>鴨 橫須賀郵便局氣付「ウ壹〇五」</p> <p>橫須賀海軍經理部氣付 （橫須賀鎮守府艦船部隊殘務整理班）</p> <p>○正誤 十月二十六日辭令欄中小澤主計大佐ノ原職「海軍艦政本部造船兵監督官兼海軍航空本部造船兵監督會計官」ハ「海軍艦政本部造船船監督官兼造船兵監督官海軍航空本部造船兵監督官」ノ、「廣島監査官兼玉野監理官ヲ命ス」ハ「廣島監理官兼玉野監理官ヲ命ス」主トシテ勞務ニ關シ監理長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ」ノ誤</p>	
--	--	---	--

海軍公報(部内限) 第四百二百二十九號 昭和十七年十月二十九日

一一四三

0330

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 號外

○ 勅 語

官房機密第一三四七六號

本日聯合艦隊司令長官ニ對シ左ノ 勅語ヲ賜ハリタリ

昭和十七年十月二十九日

海 軍 大 臣

勅 語

聯合艦隊ハ今次南太平洋ニ於テ大ニ敵艦隊ヲ撃破セ

リ
朕深ク之ヲ嘉ス惟フニ同方面ノ戦局ハ尙多端ナルモ
ノアリ汝等倍々奮勵努力セヨ

昭和十七年十月二十九日(木)

海軍大臣官房

海軍公報 (部内限) 號外

海軍公報

(部内限) 第四千二百三十號

海軍大臣官房

昭和十七年十月三十日(金)

○通牒

官房第六一六一號

昭和十七年十月二十一日

海軍省副官

關係各廳長殿

健民運動秋季國民鍊成ニ關スル件照會

首題ニ關シ厚生次官ヨリ海軍次官宛別紙寫ノ通照會有之候ニ付可然取計相成度

(別紙)

厚生省發人第一二四號

昭和十七年十月二日

厚生次官

海軍次官殿

「健民運動秋季國民鍊成」ニ關スル件

大東亞戰爭下一層國民體力鍊成ノ必要ヲ認メラレ候ニ就テハ第十三回明治神宮國民鍊成大會秋季中央大會期

間ヲ期トシ別紙要綱ニ依リ健民運動ノ一環トシテ「健民運動秋季國民鍊成」ヲ展開シ全國民ヲシテ鍊成運動ヲ實踐セシメ以テ國民體力ノ増強ト益々旺盛ナル國民士氣ノ振作ヲ期シ度候ニ付テハ之ガ趣旨御諒承ノ上貴關係方面ニ對シ之ガ實施方御協力相煩度

別紙要綱拔萃

健民運動秋季國民鍊成要綱

一 趣 旨

御稜威ノ下大東亞ノ征戰ト建設ニ着々共ノ成果ヲ舉ゲツツアルノ時天惠亦裕カニ豊饒ノ秋ヲ迎ヘ國民ノ感謝ノ念愈々湧キ士氣彌々旺盛ナリ
此ノ時ニ當リ平素國民鍊成ノ成果ヲ奉納スベキ明治神宮國民鍊成大會開催セラル依テ之ニ對應シ且ハ健民運動ノ一環トシテ全國民ノ鍊成運動ヲ展開シ其ノ實踐ヲ通ジテ益々士氣ヲ高揚シ皇軍ノ赫々タル戦果ニ應フベク明朗ニシテ剛健ナル國民生活ヲ樹立シ以テ戰時國民生活態勢ノ一段ノ強化ヲ期セントス

海軍公報(部内限) 第四千二百三十號

昭和十七年十月三十日

一一四五

<p>二 名 稱 健民運動秋季國民鍊成</p>	<p>三 期 間 昭和十七年 自十月二十九日 至十一月三日 (第十三回明治神宮國民鍊成大會秋季中央大會期間) 但シ土地ノ情況(例ヘバ 季節、秋祭其ノ他ノ行事)等ニヨリ期間變更アルモ 差支ヘナシ</p>	<p>四 實施事項 (一) 要 旨 (二) 具體要項 (イ) 第十三回明治神宮國民鍊成大會地方大會ノ開催 (ロ) 各種大會ノ開催 (ハ) 日常鍊成ノ特別強化若ハ特別行事ノ實施 (三) 實施内容、略</p>	<p>軍務一第一六七號 昭和十七年十月二十九日 海軍省軍務局長 各鎮守府 各警備府 參謀長殿</p>
<p>部外者ノ海軍練習航空隊見學ニ關スル件 申進</p>	<p>一般部外者ヲシテ海軍練習航空隊ヲ見學セシムルコトハ志願兵募集上多大ノ効果アルモノト認メラルルニ付 隊務遂行上特別ノ支障ヲ及ボサザル範圍ニ於テ募兵上 有効ナリト認メラルル部外團體等ハ之ヲ適宜指導ノ上 積極的ニ見學セシムル等ニ依リ軍事啓發宣傳ニ資スル 様可然取計相成度</p>	<p>○表彰</p>	<p>表 彰 狀 海軍大尉正七位勳六等功五級 田中 正臣 飛行機操縦術地上教育ニ關スル着陸演習機等數種ノ特殊裝置ヲ考案完成シ以テ帝國海軍ニ貢獻スル所洵ニ大 ナリ仍テ金杯一箇ヲ授與シ茲ニ之ヲ表彰ス 昭和十七年十月二十日 海 軍 大 臣</p>
<p>○辭令</p>	<p>遞信局技師 椎名清五郎</p>		

(各通)

通信書記 高野 博

同 横田角三郎

遞信局技手 元木 勇藏

遞信手 遠山 作治

横須賀鎮守府附ヲ免シ南西方面艦隊司令部附ヲ命ス

通信書記補 椎津 三郎

同 金 染 博

同 甲 斐 做

遞信技手 下釜 美之

第五十一海軍軍用電信所員ヲ免シ南西方面艦隊司令部附ヲ命ス

(各通)

工務員 田村 幹夫

同 木佐貫 泰彦

第五十一海軍軍用電信所員ヲ免シ南西方面艦隊司令部附ヲ命ス

但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(以上^{計三}海軍省)

氣象技師 大間 俊二

第八艦隊司令部附ヲ命ス(計三^同)

海軍大尉 越智 武雄(阿賀野)

海軍大尉 駒 林 巖(同)

軍艦阿賀野審議委員ヲ命ス(計四^{海軍艦政本部})

海軍公報(部内限) 第四千二百三十號 昭和十七年十月三十日

一一四七

海軍公報(部内限)第四千二百三十一號

昭和十七年十月三十一日(土)
海軍大臣官房

○令 達

官房機密第一三二九六號

海軍民政會計規程別冊ノ通定ム

別冊ハ所要ノ向ニ之ヲ配付ス

昭和十七年十月二十六日

海 軍 大 臣

官房機密第一三二九七號

占領地ニ於テ軍政施行ノ爲要スル臨時軍事費支辨ニ係

ル經費ニ關シ左ノ通定ム

昭和十七年十月二十六日

海 軍 大 臣

一 左ノ經費ハ特ニ指定スル場合ヲ除クノ外臨時軍事
費支辨トス

(イ) 内令ニ基キ設置シタル軍政機關(民政府、民政

部、同出張所等)ニ要スル一切ノ固有經費(人件

費、物件費共)

(ハ)(ロ) 前號ニ直接關係アル施設費
民政上必要ナル道路其ノ他ノ土木建築ノ初度
施設費
(ニ) 接待費
二 海軍民政會計規程第二十二條各號ノ經費ニシテ豫
算上承認シタルモノハ臨時軍事費支辨トス

○通 牒

官房第六三八四號

昭和十七年十月三十一日

海 軍 省 副 官

各 廳 長 殿

「ベスト」「コレラ」等劇烈ナル流行病指
定地ヨリ發著スル軍用航空機ノ檢疫ニ關
スル件通知

今般左記ノ通陸軍省副官ヨリ通牒有之候條了知相成度
記

陸亞普第一一三五號

「ベスト」、「コレラ」等劇烈ナル流行病指定地ヨリ發著スル軍用航空機ノ檢疫ニ關スル件通牒

昭和十七年十月十三日

陸軍省副官 川原 直一

海軍省副官 中村勝平殿

首題ノ件ニ關シ別紙ノ如ク定メラレ陸軍一般へ通牒セラレタルニ付通牒候也

(別紙)

陸亞普第一〇七五號

「ベスト」、「コレラ」等劇烈ナル流行病指定地ヨリ發著スル軍用航空機ノ檢疫ニ關スル件陸軍一般へ通牒

昭和十七年十月五日

陸軍省副官 川原 直一 圖

首題ノ件ニ關シ左ノ通定メラレタルニ付依命通牒ス

左記

一 流行病指定地ヨリ發著スル軍用航空機(作戦ノ爲檢疫實施不能ノモノ及特ニ指定スル軍用航空機ヲ含マス)ニ對シ當該飛行場所管軍司令官ハ檢疫ヲ實施

スルモノトス

二 軍用航空機ニ關スル檢疫ハ「ベスト」、「コレラ」痘瘡及其ノ他指定スル他ノ傳染病ニ付之ヲ行フモノトス

三 流行病指定地ヨリ發航スル軍用航空機ノ乗組員及搭乗者ニ對スル檢疫ハ發航前ニ問診、檢診ノ他所要ノ菌檢索ヲ實施スルモノトス

檢疫官ノ長ハ檢疫ノ結果異常ナキ時檢疫濟證ヲ交付スルモノトス尙軍用航空機ハ檢疫濟證ヲ得タル後ニ非サレハ離陸スルコトヲ得ス

四 流行病指定地ヨリ發航シ他地域ニ著陸スル場合ノ檢疫ハ概ネ前條ニ準シ實施スルモノトス但シ菌檢索ハ之ヲ省略スルコトヲ得

海人第一七四號

昭和十七年十月三十一日

海軍省人事局長

各廳長殿

辭令公報ニ關スル件通知

來十一月一日以降次期海軍士官名簿改版使用時機迄海軍士官(將官ヲ除ク)少尉候補生及見習尉官ノ補職辭

令ハ現ニ使用中ノ名簿ノ順序ニ依リ掲載(兵科士官中
機關學校出身者ハ從來ノ電報符ヲ使用)ノコトニ定メ
ラレ候

經豫第三號ノ五七〇
昭和十七年十月三十日

海軍省 經理局長

關係各支出官
關係各資金前渡官吏 殿

日本銀行代理店設置ノ件通知

國庫事務ヲ取扱フ日本銀行代理店ヲ比律賓ミンダナオ
島ダバオ、同セブ島セブ、同ネグロス島バコロド及同
ルソン島バギオニ設置、十一月一日ヨリ之ガ事務ヲ取
扱フコトト相成候

○ 辭令

通信書記 小林 茂

第三南遣艦隊司令部附ヲ免ス(計部海軍省)

海軍主計中尉 戸崎 徹

第四課勤務ヲ命ス(計部海軍省軍務局)

海軍主計大佐 小澤 嘉藏
廣島海軍監督官事務所ニ要スル經費支拂ノ爲資金前
渡官吏ヲ命ス

同 藤田 傳次

資金前渡官吏ヲ免ス(計部支出官海軍省經理局長)

海軍軍醫中佐 新藤 信

總務部勤務ヲ命ス(計部水路部)

海軍中佐 小原 尙

總務部首席部員ヲ命ス(計部同)

海軍中佐 寶來 邦太郎

第二課勤務ヲ命ス(計部海軍氣象部)

○ 雜款

○ 旗艦變更
第一潜水戰隊司令官ハ十月十三日旗艦ヲ平安丸ニ變更
セリ

○ 事務引繼
在廣島海軍監督官事務所資金前渡官吏十月二十四日事
務引繼ヲ了ス

新任 海軍主計大佐 小澤 嘉藏
舊任 同 藤田 傳次

○事務所設置
 舞鶴鎮守府艦船部隊残務整理班事務所ヲ十月二十四日
 舞鶴海軍經理部内ニ設置シ事務ヲ開始セリ
 追テ郵便物ハ
 舞鶴海軍經理部内舞鶴鎮守府残務整理班宛
 (舞鶴海軍經理部)

○事務所撤去
 阿賀野艦裝員事務所ヲ十月三十一日撤去ス